

## 2013年度 日本文化人類学会 第1回 理事会 議事録

日時：2013年4月28日（日）14:00～17:30

会場：上智大学 四谷キャンパス2号館 2-630a

出席者：小泉、綾部、赤堀、池田、小田、春日、亀井、岸上、窪田、栗本、高倉、棚橋、出口、中谷、  
三尾、森山、山本、和崎

委任状提出：上杉、佐々木、清水、曾我、松田

### 〔承認事項〕

1. 2012年度第7回理事会議事録
2. 新入会員（11名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. シンポジウム等の学会後援について
  - ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所より同研究所主催シンポジウム「人類学的思考の沃野ー 山口昌男追悼AA研シンポジウム」（2013年6月7日開催）の学会後援依頼があり、総務会で承認したことを報告の上、事後承認。

### 〔報告事項〕

1. 庶務理事報告
  - ・「第10回（平成25年度）日本学術振興会賞」の学会推薦が完了したことを報告。
  - ・「第4回日本学術振興会育志賞」の学会推薦候補者募集案内をJASCA-INFOで配信したことを報告。（2013年4月8日配信、5月20日締切）。
  - ・名誉会員の推薦について、推薦候補者から名誉会員推薦受諾の回答があったことを報告。6月8日開催の評議員会へ諮ることを確認。
2. 会計理事報告
  - ・学会臨時事務局員の雇用について、理事会メーリングリストで理事推薦による募集を行った結果、1名の応募があり、学会50周年記念事業準備委員会予備会合の場において総務会で検討し応募者の採用を決定したことを報告。
  - ・2012年度決算に関する会計監査を5月10日に事務局にて実施予定であることを報告。
3. 総務理事報告
  - ・2013年度学会公開シンポジウム「現代文化人類学のフィールドワーク力：人類学は世界をどうみるか？」（2013年11月17日（日）開催、於京都大学百周年時計台記念館）に関わる「平成25年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）：研究成果公开发表（B）」の採択内定通知が届いたことを報告。
  - ・2014年度人類学関連学会協議会合同シンポジウム（日本文化人類学会主催）について、赤澤威氏（高知工科大）に協力を依頼し、協議の結果「ヒトがヒトであるゆえん：学習能力の進化をめぐる」（仮）のタイトルで合同シンポジウムの開催準備を進める旨を報告。本学会代表のシンポジストは寺嶋秀明会員（神戸学院大）を予定。
4. 広報理事報告
  - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき5件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
  - ・学会50周年記念事業関連でjasca.orgドメインのアドレス2件、メーリングリスト1件を作成したことを報告。
5. 各種委員会報告
  - ・『文化人類学』編集委員会：各号の進捗状況を報告。
  - ・JRCA編集委員会：Vol. 14の進捗状況を報告。
  - ・課題研究懇談会担当委員会：各課題研究懇談会より提出された平成24年度活動報告書・会計報告（決算書）について、委員会内で内容と形式を確認した上で、各研究会代表者に改善点を通知したことを報告。

- ・学会歴史委員会：インタビュー映像記録について岩田慶治先生のご遺族から公開に関する承諾書が届いたことを報告。
  - ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況を報告。また、現在は会員数により地区予算が割分されているが、活動内容や収支の実態に合わせ配分率を再検討する必要があるとの意見が出された。
  - ・倫理委員会：倫理規定に関する情報収集を進めていることを報告。
  - ・学会賞選考委員会：日本文化人類学会学会賞選考規則の改正案を委員会内で作成中であることを報告。
6. その他
- ・山本理事より、諸学会間の連絡関係を背景の一つとして、人文社会科学系諸学会の男女共同参画連絡会の設立準備会が立ち上がったことが報告された。
  - ・小長谷有紀会員の紫綬褒章受章が報告された。

#### 〔審議事項〕

1. 2012 年度事業報告案・2013 年度事業計画案について
  - ・棚橋理事より、資料に基づき 2012 年度事業報告案・2013 年度事業計画案について説明があり、担当部分を含む全体を確認するよう各理事に要請がなされた。両案を次回理事会で確定することを確認した。
2. 2012 年度決算案・2013 年度予算案について
  - ・三尾理事より、2012 年度決算案・2013 年度予算案について資料に基づき説明があり、次回理事会で引き続き審議を行うこととした。
3. 理事の任期について
  - ・棚橋理事より、第 25 期理事会と学会 50 周年記念事業準備委員会関係の任期を 2014 年 5 月の学会 50 周年記念国際研究大会終了時点までとすることについて、スケジュールに関する資料に基づき説明と提案がなされた。検討の結果、第 25 期理事会及び学会 50 周年記念事業準備委員会関係の 2014 年 5 月 18 日までの実働が承認され、2014 年 4 月 1 日以降は第 26 期理事会との併走となることが確認された。
4. 学会賞選考委員会委員の委嘱について
  - ・第 9 回奨励賞の選考に関わる学会賞選考委員会委員の委嘱について原案が承認された。
  - ・第 9 回奨励賞の選考と第 9 回学会賞授賞候補者の評議員投票が完了した後に、第 9 回学会賞の選考に関わる委員を改めて委嘱することを確認した。
5. 学会 50 周年記念事業について
  - ・第 4 回学会 50 周年記念事業検討委員会議事録が提示され、案件の確認を行った。
  - ・小泉委員長より、2013 年 4 月 1 日をもって学会 50 周年記念事業検討委員会が学会 50 周年記念事業準備委員会へ移行したことが報告された。
  - ・綾部理事より、今後、学会 50 周年記念事業への準備が進む中で予想される急を要する案件への対応について提案があり、検討の結果、「『日本文化人類学会 50 周年記念事業準備委員会』発議の承認手続きについて（申し合わせ）」が承認された。
  - ・日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会について学会 50 周年記念事業準備委員会での検討を経た次の事項について審議を行った結果、承認された。
    - ①日本文化人類学会 50 周年記念事業準備委員会の中心となる運営会議の発足。
    - ②募金委員会の設置。
  - ・小泉委員長より、日本文化人類学会 50 周年記念国際研究大会について第 1 回学会 50 周年記念事業準備委員会での検討を経た次の事項について報告がなされ、了承された。
    - ①首都大学東京と千葉大学へ正式協力依頼を行った。
    - ②人類学関連学会協議会の各加盟学会へ正式協力依頼を行った。なお、各加盟学会へはそれぞれシンポジウムの設置依頼を行う予定。
    - ③開催会場近隣の大学へ協力要請を予定。
    - ④千葉県国際会議開催補助金制度、村田財団他への助成申請の実施。
    - ⑤国内で進行中の大型研究プロジェクトに対し学会 50 周年記念国際研究大会におけるシンポジウム開催依頼を予定。
    - ⑥海外との合同パネルやシンポジウムの開催に関する準備状況の説明。具体的な参加カテゴリーや進め方については原案を作成していくことを確認。

⑦刊行物や公開方法等、パブリケーションについても検討や準備を進めることを確認。

⑧国立民族学博物館と国立新美術館との企画展示の準備状況と、企画展に関連したシンポジウムの開催計画を説明。

#### 6. 学会の公益法人化について

- ・ 棚橋理事より、2012年9月に本学会を含む協力学術団体を対象に日本学術会議科学者委員会・学協会の機能強化方策検討等分科会が実施したアンケート「学協会の機能強化のための学術団体調査」の結果報告書が届いたことが報告された。報告書には可能な限り早い時期に法人格を取得する必要性が説明されており、意見交換の結果、本学会も現在の任意団体から法人化への移行についてこの1年で検討を進める必要があるとの認識を共有した。本件に関し、各理事がそれぞれの立場で情報収集と意見の提示を行うよう要請された。また、本件は継続審議とすることを確認した。

#### 7. その他

- ・ 第3回三島海雲学術賞授賞候補者の学会推薦依頼が届いたことが報告され、昨年度と同様の手順で募集および選考を実施することが承認された。
- ・ 森山理事より、2012年度第3回文化人類学若手懇談会議事録に基づき報告があった。この議事録の内容を受け、教育委員会の下にワーキンググループを設置して、これを学会と若手懇談会の組織的な連携のチャンネルとして若手会員の動向把握とサポート体制等についての検討を可及的速やかに開始する必要があるとの提案がなされ、承認された。
- ・ 三尾理事より、東日本大震災の被災会員に対する会費徴収特例措置の2013年度の継続について提案があり、承認された。JASCA-INFOと学会HPで会員へ周知することとした。会員宛の文案は三尾理事が作成することとした。
- ・ 平成26年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）への応募に関し、引き続き研究成果公開促進費申請検討ワーキンググループでの検討を進めることを確認し、必要に応じて委員を新たに追加することが承認された。欠席の松田委員長へは小泉会長から説明を行うこととした。
- ・ 山本理事より、日本学術会議の人類学分科会で「（文化）人類学分野の教育の質保証」の参照基準の草案策定を進めていることが報告された。本件は大学教育における分野別の質保証に関わる教育課程編成上の参照基準策定に直結する重要な作業であるとの認識を共有した。
- ・ 岸上理事より、国立民族学博物館で予定している新しいプロジェクトに関し、学会の支援が必要となる可能性について報告された。

以上